

## 「はてな」が推進する活動

—安城市立作野小学校における生活科授業実践—

川 口 きぬよ

(安城市立作野小学校)

船 尾 日出志

(愛知教育大学 社会科教育講座)

## LERNHANDLUNGEN, DIE VERSCHIEDENE "? = HATENA" DER KINDER ANTREIBEN

— Praxis des Lebenskundeunterrichts an der SAKUNO Elementarschule zu Anjou —

Kinuyo KAWAGUCHI

(Lehrerin an der SAKUNO Elementarschule zu Anjou)

Hideshi FUNAO

(Lehrstuhl fuer Gemeinschaftskundeunterricht)

### Inhaltsverzeichnis

Vorwort, 1. Zur Einfuehrung, 2. Richtlinien fuer Praxis, 3. Beispiel ① (Kinder suchen ihr Ort.) , 4.

Beispiel ② (Kinder kochen Daizu) , 5. Genelalisierung und kuenftige Aufgaben

キーワード：生活科，探検活動，調理活動

### 序

体験と活動を重視する教科生活科が導入されて10年以上になる。生活科一回生は今では高校生となっている。小学校低学年の2か年のみの生活科がどの程度人格発達に影響しているのかの解明は今後の課題であろう。しかし生活科は明らかに成功している。だからこそ我が国の小学校から高等学校までのすべてにおいて総合的学習の時間を設置するという事態がもたらされたのであると、筆者は考えている。

ここで紹介する生活科の実践は町探検と大豆の調理活動に熱中し、そして人格発達を遂げた子どもたちの様子を豊富な写真映像とともに再現している。その際、「はてな」が子どもたちの活動を推進したことが読みとれると考える。

またヘーゲルが『精神現象学』のなかで意識が自分に帰り、主体性を発揮するためには労働が必要であり、特に「物の形成」という要素が必要であると述べていることを是とした場合、大「探検マップ」の作成や「へんしん名人 ダイズ君」の実践がどれほど子どもたちにとって有意義であったか言うまでもないであろう。

(この小論は平成13年度安城市教育委員会派遣の川口教諭と共に学んだ成果の一端である。この間、安城市立作野小学校前校長の石原国基先生および現校長の

平澤盛久先生、そして安城市教育委員会に支援をいただいた。)



## 1 はじめに

ここ数年続けて低学年の担任を受け持っている。そんな中で私が強く感じたことは、子どもたちは、自然の中で思いきり遊んだり生き物の様子をじっと見つめたり、いろいろな人々と話したりすることは好きだということである。そんな活動に夢中になっているときの子どもたちの表情や言葉には、その子その子のよさやすばらしさが表れる。

しかし、子どもを取り巻く社会の大きな変化は、必ずしも子どもが健全に成長していくのに適しているとは言えない。自然と触れ合える場や機会の減少、身近な人々との交流の希薄化などが問題となっている。だからこそ、数少ない機会や場を見つけたり、あえて設定し学習の中に盛り込んでいくことを重要と考えた。授業を通して、様々な具体的活動を体験し、その中で得られる知的な気付きを大切にしていくことは、子どもが本来持っている「生きる力」の芽を開花させていけるのではないか。そこで、本主題を設定し、生活科の学習を核とした研究に取り組むことにした。



## 2 実践のための方針

方針① 探検・取材・飼育・栽培・調理など、驚きや楽しさの感じられる学習場面を多く設定し、子どもの思いや願いを大切にしながら単元を構成したり、学習形態を柔軟に変化させていったりすれば、子どもの活動意欲を高めていくことができるだろう。

方針② 書籍をはじめとして、インターネット、あるいはインタビュー活動など、様々な情報源を効果的に活用したり、地域の人材・教育ボランティアの協力を得たりすれば、子どもの多様な学びに対する思いに対応していけるだろう。

方針③ 探検・取材・飼育・栽培・調理などの活動から生じた知的な気付きを大切にしながら、それらを多様な方法で表現できる場を設けていけば、子どもの追究の持続や発展を支えることができるだろう。

## 3 実践①

「とびだせたんけんたい！めざせタウンガイド」

### (1)「町探検にレッツ・ゴー！」

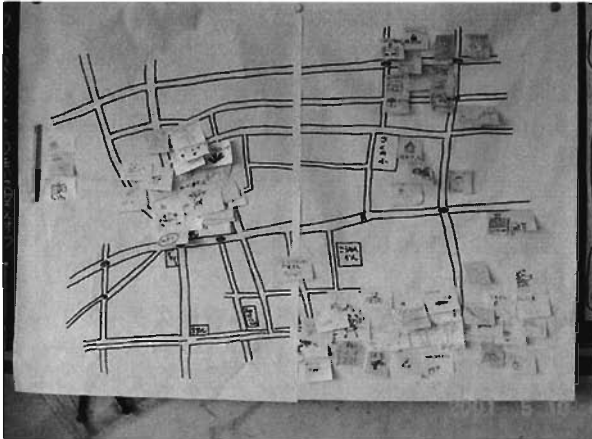
本単元では、まず、クラス全員そろって、学区内の主な場所を探検するために出かけた。選んだ場所は、ビオトープを含んだ学区内の公園、農業用水の流れる小川、いろいろな店が立ち並ぶ通りの3カ所である。町探検では、様々な追究の可能性がある。違ったタイプのいくつかの場所に探検に出かけることで、子どもたちの関心のありかを探ることにした。公園では、遊具や草花、そこに生きる虫に強い関心を示す子が多かった。小川では、ザリガニやアメンボつかみに一生懸命になる子、水辺に生える植物の様子を熱心に観察する子の姿が見られた。お店が並ぶ通りの探検では、「自然が少ないね。どうしてだろうね」と生き物や草花の少なさに気付いたようであった。



探検にいきます。みんなでGO!

### (2)「大きな探検マップができたよ！」

3コースの探検を終えて、それぞれの場所で自分が見つけてきたお気に入りのものを紹介しあった。色別カードに書き、それを大きなマップに貼り、迫力あるオリジナルの楽しい探検マップができ上がった。マップを見ながら、気付いたことを話し合う場を設けた。すると「公園は、花と虫がたくさんで自然がいっぱいだね」、「グリーンロードには生き物がたくさん住んでいるね」などの気付きが出された。マップの空白部分があることに気づき、「まだ行ったことのないところもあるね」という子どもの声から、「他のところのことがわからないよ。べつのところにももっと行ってみたいな」という思いが生じてきた。そこで、子どもたちの探検に行きたい場所をアンケートで取り、多コースでの探検に踏み切ることにした。



みんなで作った大きな探検マップ

(3)「お気に入りスポットでいろんなもの見つけたよ!」

子どもたちが選んだ探検コースは12ヵ所にもなった。店屋（花・葉）、公園（5ヵ所）、小川、公民館などである。学年TT体制を取ることと、保護者による教育ボランティアを募集し、安全上の留意や子どもの様子の記録について協力してもらうことで多コース同時の探検が可能となった。それにより、子どもたちの希望をかなえて、追究を進めることができた。

この探検では、お気に入りのスポットについてのこだわりが深まったり、より多くの「はてな」を生み出したりすることをねらいとして、同じ場所に3回足を運ぶことにした。繰り返し追究対象（探検場所）にふれることが重要だと考えたからである。昔からの公園に探検に行った児童Aは、大きな木が何本も立っていることに着目し、他のできたばかりの公園の細くて低い木との違いについて疑問を持った。児童Bは、公園内の池（ビオトープ）から魚や生き物を捕まえるという活動を通して、どうしてこんなに生き物の種類が豊富なのか、これらの生き物のエサは何なのか知りたいという疑問を持つようになった。

(4)「はてなを解決!～調べ学習・メモ集会・インタビュー作戦から～」

3度の探検を通して出てきた疑問を解決する方法として、調べ学習・ゲストティーチャーを招いてのメモ集会・インタビュー作戦を行った。

調べ学習では、主に生き物や植物の名前や特徴について、書籍を用いて調べることにした。学年の廊下に「調べ学習コーナー」を設置し、関係のある本を図書館から持ってきて並べ、調べられるようにした。教師がインターネットから検索した資料をファイル化したものも加え、より豊富な情報が得られるよう配慮した。児童Bは、生き物の世話に関する本を熱心に読み、捕まえてきた生き物を教室や家で熱心に飼育した。



調べ学習コーナーで図鑑を見る子ども

話を聞いて大事なことをメモする集会を「メモ集会」と呼び、数回行ってきた。今回は、学区内の公園を管轄している市役所の公園緑地課の方をゲストティーチャーとして招き、公園探検で出た疑問に答えていただく機会を設けた。



公園緑地課の方から話を聞く

児童Aは、探検で見つけた大きな木がたくさん立っている公園と、そうでない公園の違いのわけを直接ゲストティーチャーから聞き、納得した表情を浮かべていた。

薬屋に出かけた児童Cは、薬屋なのに薬以外の商品がたくさん並んでいることや、よく売れる薬は何だろうと疑問を持った。そこで探検に行った時にインタビューをして聞いてくることにした。インタビューすることがらについては、事前に班の友達とも相談し、カードにまとめてから出かけた。店員さんに声をかけるのに不安げな表情をしていた。しかしながら勇気をもって質問することができ、店員さんから詳しく親切に教えてもらい、満足げな様子だった。

(5)「ポスターセッションで探検発表会」

それぞれのコースで学んできたことをお互いに発表しあって、全体に広めることにした。今回は、ポスターセッション方式を取り入れて、グループを交代制にして、発表しあった。探検に行った時に自分たちで撮

影してきた写真やイラストを、模造紙や画用紙に載せて楽しく紹介できるようにした。調べてわかったことや、インタビューしてきたことも盛り込んで発表できるようにした。事前に班で探検発表会に使う写真の選定・文章の検討を行い、探検発表メモを作成、活用した。聞き手となる時にも、漠然と聞いてしまわないように聞き取りメモカードを用意した。質疑応答の時間を設け、一方的な発表とならないようにした。



見てね！聞いてね！探検発表会

#### (6) 「作ろう！ぼくらの『さくのタウンガイド』」

何度も目的とこだわりを持って出かけた探検活動や追究学習の成果を、他の人たちにも教えてあげたいなという思いが強まった。そこで、後にも残る形として、クラスで1冊のタウンガイドを作成することにした。まず、様々な地図を用意し、写真やイラストがあると見やすく、楽しく、わかりやすいということを紹介した。その後のガイド作りでは、班の中で、1~2ページ分の記事を担当して、写真や絵を楽しく配置しながら作り上げていった。班の中で記事が重複してしまわないように確認したり、もう1度図鑑で生き物や花の名前を調べたり、事実だけの記述に終わらず自分の主観を盛り込んだ内容になるようにと、声をかけた。

できあがったタウンガイドは、自分たちの手元に置くだけでなく、お世話になったお礼に、ゲストティーチャーや教育ボランティアさんなどにプレゼントした。



できあがったタウンガイドの写真

タウンガイドが1冊の本としてできあがり、その中には一人ひとりの子どもの学びの足跡が残されている。成長アルバムに匹敵するほどの宝物になった。できあがった喜びは子どもたちの大きな自信につながった。

#### 4 実践②「へんしん名人 ダイズくん」

##### (1) 「ダイズって種だったんだね～栽培スタート！～」

「へえ、これがダイズなんだね」「ダイズって種だったんだね」これは、5月にダイズをまくときに子どもが発した言葉である。ダイズは学校にある農園と子どもの一人一鉢に植えることにした。大きくなって収穫できる日を楽しみに栽培が始まった。

また、「はっけんカード」という五感マークのついた観察カードを活用することで、観察の視点を示し、体験がより有意義なものとなるようにした。

##### (2) 「ダイズ博士の畑を拝見～見学学習で～」

夏休みを経て、子どもたちの一鉢に植えてあるダイズ（エダマメ）の木はひょろひょろで、数個しか実らなかった。一方、学校の畑では、葉がしげり、エダマメもたくさん実り始めていた。そんな違いを目の当たりにした子どもたちは「はてな」を抱いた。児童Aもその一人だった。児童Cは、夏休みに家族から「ダイズには肥料をやってはいけない」と聞いたことが不思議でたまらなかった。そこで、学区でダイズを栽培する方の畑へ見学に行かせてもらうことにした。学校の運動場ほどもある広大な畑に子どもたちは驚いた様子だった。ダイズ博士に栽培スケジュールを話していただいた子どもたちは、熱心にメモをとっていた。設けられた質問タイムにも、たくさんの「はてな」が出された。植木鉢と畑での成育の違いについては、根が育ちきらず、どうしても水分が不足してしまうということが原因だと教えていただいた。児童Cも肥料のことで質問した。「根粒菌」があるためダイズは自分自身で栄養を作り出せるのだという答えに、Cは納得した様子だった。Aは「ダイズにはどんな栄養があるのですか」と質問し、「たんぱく質」という言葉を聞いた。栄養が豊富で体にいいという話を聞き、ダイズについてももっと好きになったようだった。

##### (3) 「立派に実ったエダマメくん～五感をフル活用して～」

博士の畑の見学からしばらくして、学校の畑のエダマメが実り始めた。畑の半分はダイズまでにしようということで、半分をエダマメのうちに収穫した。20本ほど収穫した木からとれたエダマメを数えてみると、2000粒あまりにもなった。一粒から始まったダイズの成育ぶりのすごさに子どもたちも歓声を上げ、収穫を喜びあった。



ダイズ博士と広い畑

とったエダマメは早速、塩ゆでして食べることにした。エダマメのゆで上がるにおいが教室じゅうにたちこめると、「早く食べたい!」と待ちきれない様子だった。ゆで上がったエダマメをみんなで分けて食べたところ、「おいしい!おかわりあるかな」「こんなにおいしいのははじめて」という声が聞かれた。農業を使わずに栽培したので、虫も所々ついてはいたが、「虫のついてる所だけやめておけばいいよ」と平気で食べる子どもたちのたくましい姿が見られた。



エダマメを数えるよ。1・2・3…

#### (4)「ダイズの変身ぶりにびっくり!～メニューにひそむダイズくんを探して～」

このように見学学習・ダイズ博士との出会い・エダマメを食べるといった活動を通して、子どもたちはエダマメ・ダイズについて関心を高めていった。そこで、ダイズからできる加工食品についてどれほど知っているかを把握するため、給食のメニュー表を利用して「ダイズくんさがしゲーム」を行った。

子どもたちが探しあてたダイズの加工食品は、「豆腐」「豆乳」にとどまり、「味噌」や「油揚げ」「醤油」などは知らないということがわかった。そこで、家の人にインタビューしてダイズからできる食品について調べてくることにした。家の人との協力のおかげで他にも様々な食品があることがわかった。

また、ダイズ商品についているラベルやパッケージを集めようと呼びかけたところ、模造紙4枚分にも及ぶラベル・パッケージが集まった。それを見るだけで

も、ダイズ食品の種類が多さが実感できた。

#### (5)「みんなでお買い物～変身したダイズくんの味は?～」



こんなに集まった変身ダイズくん

実際にお店に行ってダイズ食品を買い物してくることにした。学区内にあるスーパーマーケットに出かけ、ダイズ食品を探した。児童Aは「きなこ」を選んでいった。児童Bは、「納豆」が大好物で3個パックのものを買った。他にも、「豆腐」「豆乳」「味噌」などを買った子がそれぞれいた。

教室へ帰ってきて、早速試食してみることにした。「きなこ」を選んだAは、しばらくなめていたが、砂糖が入っていないので、「苦い」と言って途中でなめるのをやめてしまった。Bは「おいしい、おいしい」と、「納豆」パックを2個もぺろりと食べてしまった。思い思いのダイズ食品を食べたこの試食を通して、「どうやって作るんだろうね」という「はてな」を訊きだすことができた。



お買い物～どれにしようかな～

#### (6)「変身グループで調べたよ!作ったよ!～学級を解体しての追究活動～」

ダイズから様々な食品ができることを知った子どもたちは、自分が詳しく知りたい食品を選んで追究活動を進めた。追究コースは希望により「きなこ」「納豆」「豆腐」「豆乳」「ゆば」「厚揚げ」「味噌」「醤油」と8つに分かれ、「変身班でのお勉強」と名付けた。この「変身班」での追究は、学級解体をし、学年TT体制を

とりながら進めた。ダイズ食品の試食から生まれた「はてな」＝「ダイズからどうやってできていくのかな」ということについては、どの班も共通に取り組むこととした。納豆班やきなこ班では、作り方を調べていくうちに、「自分たちでも作って食べてみたい」という思いが高まり、実際作ってみることにした。

納豆作りは3日間かけて、うまく納豆菌が発酵するかどきどきしながら行った。一晚、40℃に設定したこたつに入れて、さらに1時間冷蔵庫で寝かせた。いよいよ冷蔵庫から取りだし、納豆のパックのふたを開けてみると、成功の証拠である糸がひいていた。自分たちの手で、ダイズを納豆にまで変身させた喜びに歓声を上げながら、手作り納豆を味わった。



ほら糸がひいた！～納豆作り大成功～

変身班での学習は、各自で見つけてきた書籍を見合ったり、班みんなでコンピュータ室へ行ってホームページを参照したりした。味噌の班では、実際に毎年自分で味噌を作っている方にゲストティーチャーとして来てもらい、話を聞く会を設けることができた。調べてわかったことや体験したこと、話を聞いたことなどは、すべてカードに書き、ファイルにとじていった。

「変身班」での追究を模造紙にまとめることにした。教師が撮影しておいたデジカメの写真を貼ったり、自分でイラストを描いたりした。一人ひとりが、これまでの学習で使用した資料や調べ学習カード、お話メモカードなどがすべてとじ込んである個人ファイルを活用しながら進めた。本やホームページに書いてある事



変身班での学びをまとめたもの

実だけを書きうつすのではなく、自分の感想や「はてな」も合わせて載せるとよいとアドバイスした。

まとめの書かれた模造紙を使って変身班発表会をクラスで開いた。それぞれダイズの変身についてコース別に取り組んできたものを、クラス全体で共有したいと考えたからである。

自分の学びについて発表したり、友だちの調べたことや体験談を聞いたりする有意義な会となった。

#### (7) 「うまいくいかな?～豆腐・きなこ作りにワクワク～」

きなこ班や納豆班が、変身班での追究活動の際に、実際に食品を作って食べたことが発表会で紹介されたことをきっかけに、「クラスでも作ってみたい」という声が多く聞かれた。そこで、豆腐ときなこの2種類について、作って食べるという体験をしてみることにした。



豆腐作り～成功するかな～

まず、豆腐作りでは、豆腐班が調べた作り方を参考ににした。一晚水につけておいたダイズを水とともにミキサーにかけることから始めた（「呉」作り）。できた「呉」を鍋にかけて煮る作業と、この煮汁をこし布に入れて絞る作業は、熱いものを扱うので、各班に1～2人いる教育ボランティアさんに手伝ってもらった。絞り汁は豆乳で、スプーンにすくって味見してみた。「飲んだことのある豆乳より濃くておいしい」、「砂糖が入ってないのにあまいね」などの声が聞かれた。豆乳を80℃に温めたところで、にがり混せて固まらせる。ここのタイミングが微妙で難しいため、混ぜる動作を練習してから行った。うまく固まらない班もあったが、作りたての豆腐の味はすばらしかった。「ダイズから豆腐に変身していくことがわかりました。それにしても『にがり』って魔法の薬だね。どうして『にがり』を入れると固まるんだろうね」と、豆腐作りが成功したことを喜びながらも、新しい「はてな」を抱く子も出てきた。

#### (8) 「変身名人ダイズくん物語を作ろう～学びのまとめとして～」

これまでの追究活動を通して、子どもたちは、ダイ

ズは栄養も豊富で、様々な食品に姿を変え、人々の生活に役立っているということを実感した。学習のまとめとして、変身名人のダイズくん物語を作ることにした。学習時にいつも活用してきたファイルを参照しながら、楽しく物語作りに取り組んだ。

ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん
ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん
ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん
ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん	ダイズくん

ダイズくんの物語を考えたよ

子どもたちが考えたこの物語を合わせて、さらに練り上げ、実際に学芸会の台本に仕上げた。

また、表現の場を学芸会だけにとどめず、学年で「ダイダイ大好き、ダイズ祭り」という行事を開く予定である。今までの学習の集大成として、楽しい祭りになるようにしたいと考えている。

### 5 研究のまとめと今後の課題

#### (1)方針1について

実践①では、繰り返し町探検に出かけることで、子どもたちの中にこだわりが生じ、追究意欲の高まりにつながった。「はてな」を明確にしてから、次の探検に出かけるという流れを学習場面内に設けたことも、追究の行き詰まりを打破するよいきっかけとなった。また、子どもの学びの実態に合わせ、単元構想を柔軟に修正していき、最終的にタウンガイド誌ができ上がったことは、子どもたちの大きな自信につながった。実践②では、五感を刺激する学習材「ダイズ」を取り上げたことで、驚きや発見、感動のある単元となった。

「作って食べてみたい」という子どもの願いを盛り込んだ単元構成は、魅力ある学習を進めることを可能とした。

繰り返し対象とかかわり、その中から追究課題を見つけ、興味関心別グループを作って学習を進める形態をとったことは、今後3年生に進級して、総合的な学習の時間に取り組むときにも生きてくると確信している。

#### (2)方針2について

子どもたちの「はてな」を教師がつかんでおくことは、次の学習を展開していく上で、非常に重要である。実践①では、調べ学習コーナーを学年の廊下に設置し

た。子どもたちの「はてな」を知った上で、関連書籍を並べたり、インターネットのホームページから得た情報をファイリングしたものを置いたりした。これにより、気軽に調べ学習ができ、得た情報をすぐに活用することができた。実践②でも、書籍やインターネットを利用して情報収集を行ったが、それに加え、ダイズ商品のパッケージやラベルも情報源となった。

実践①・②とともに、ゲストティーチャーや教育ボランティアの協力を仰ぐ場面を設けた。子どもたちの多様な学びに対応したり、「はてな」を解決する一助となったりした。

#### (3)方針3について

実践①では、探検のまとめとして、最後に1冊のタウンガイドができ上がった。自分の足で歩いていき、お気に入りの場所やものを見つけ、それについて調べたりインタビューしたりしたことや、こだわって撮影した写真、楽しく描いたイラストなどが、子どもの思いとともに、各々担当した1ページに詰まっている。今の自分たちでしか作れない本ができあがったことは、子どもたちにとって大きな誇りとなった。

実践②では、ダイズの変身ぶりに着目して物語作りをした。「空飛ぶダイズくんがお腹をすかせた子を見つけ、自分の体からきなこを出し、子どもを救ってあげる話」や、「悪者を退治するためにダイズくんが味噌に変身して戦う話」など、ダイズのことをよく理解していることがわかった。学んだことを楽しんで物語に盛り込み、表現することができた。

#### (4)今後の課題

子どもたち個々の追究意欲を大切にすれば、学習内容も多岐にわたってることになる。一斉授業だけでは、幅広い学習を展開していくのは困難である。そこで、学年でTT体制をしることや、教育ボランティアの協力も必要となってくる。今回は、学年で連携し、十数名ほどのボランティアが集まったが、それでも対応しきれない場合もある。この場合、どのような方法が可能なのか、さらに検討していきたい。

また、ゲストティーチャーや教育ボランティアとの打ちあわせには、授業の意図するところをよく理解していただくために、きめ細やかな準備の必要があった。さらにお世話になったお礼も気持ち良く伝わるようにと心がけた。お礼のあらわし方について、今回は教師だけで考えて、子どもたちの書いたお礼状や作品をプレゼントした。しかし、学びの主人公は子どもである。子ども自身のアイデアを生かすことも取り入れていけば良かったと感じている。

いずれにせよ、学校教育と地域社会・家庭とが、ますます結びつきを強め、交流しやすい雰囲気を作っていくことが大切である。そして、学校は地域社会・家

庭に協力を求めるばかりでなく，地域・家庭の要請にも耳を傾けていくことも忘れてはならないだろう。心と心のかけ橋となれるように。